



管理者ガイド

Release 9.1C

© 2002, 2003 Unify Corporation. All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this tutorial may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

Doc@unify.com

(800) 468-6276 or (800) 468-6343; (916) 928-6400

FAX (916) 928-6401

UNIFY, ACCELL, VISION, DataServer, and the Unify Logo are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NX^J is a trademark of Unify Corporation. UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries. Borland is a registered trademark of Borland Software Corporation. BEA WebLogic is a registered trademark of BEA Systems, Inc. IBM and WebSphere are trademarks or registered trademarks of International Business Machines Corporation. The X Window System is a product of the Massachusetts Institute of Technology. SYBASE is a registered trademark, and SQL Server, DB_Library, and Open Server are trademarks of Sybase, Inc.

INFORMIX is a registered trademark of a subsidiary of IBM. ORACLE is a registered trademark of Oracle Corporation. Sun is a registered trademark, and SunView, Sun_3, Sun_4, X11/NeWS, SunOS, PC_NFS, and Open Windows are trademarks of Sun Microsystems. All SPARC trademarks are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. SPARCstation is licensed exclusively to Sun Microsystems, Inc. Microsoft, MS, and Windows are registered trademarks of Microsoft. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

目次

1. NX^J コントロールセンタについて	1
NX ^J コントロールセンタとは？	1
Unify NX ^J 実行環境	2
NX ^J コントロールセンタ管理者	3
NX ^J コントロールセンタのリソース	3
NX ^J コントロールセンタのセキュリティ	5
Groups のサポート	7
2. NX^J コントロールセンタでの作業開始	8
NX ^J コントロールセンタへのアクセス	8
NX ^J コントロールセンタメニュービュー	10
NX ^J コントロールセンタ管理者の割り当て	12
3. セキュリティ	15
Access Control	15
Read Access Control と Write Access Control	16
NX ^J Control Center の Actions	17
Actions の Access Control をカスタマイズ	18
Resource の Access Control をカスタマイズ	20
Recipients のカスタマイズ	20
4. アプリケーションの配備と管理	21
新規アプリケーションパッケージの配備	22
アプリケーションの配備	22
タスク 1：アプリケーションパッケージの場所	24
タスク 2：アプリケーションパッケージの配備	25
タスク 3：アプリケーションのテスト	28
タスク 4：アプリケーションが利用できることをユーザに通知	28

	配備されたアプリケーション情報の表示.....	29
	アプリケーションの再配備.....	29
	アプリケーションパッケージの削除.....	29
5.	メニュー管理	31
	新規メニューの作成.....	34
	メニュー項目の追加と更新.....	39
	メニューの削除.....	41
	メニュープロパティの変更.....	41
	メニューのアクセスコントロールを設定.....	42
	メニューのローカライズ.....	44
6.	通知管理	46
	通知の作成.....	47
	通知の編集.....	49
	通知の削除.....	50
	Notification Administration ページの使用.....	51
7.	NX^J Control Center のカスタマイズ	53
	Actions.....	53
	Locales.....	55
A.	ccmanage ユーティリティ	57
	NX ^J コントロールセンタの配備.....	57
	NX ^J コントロールセンタの更新.....	58
	NX ^J コントロールセンタの削除.....	59
B.	ライセンス	61
C.	IBM WebSphere 4.X アプリケーションサーバに配備する NX^J アプリケーション	63
	WebSphere 4.X アプリケーションサーバを使った配備.....	63
	スタンドアロンアプリケーションへのアクセス.....	65

NX^J コントロールセンタについて

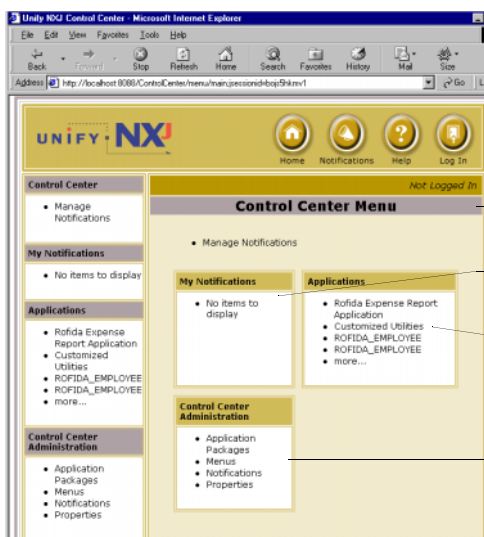
1

NX^J コントロールセンタとは？

NX^J コントロールセンタは、専用の Web アプリケーションです。NX^J コントロールセンタは、Unify NX^J アプリケーションの実行環境を管理します。NX^J コントロールセンタには、アプリケーションおよび関連リソースのメニューシステムとアクセスコントロールが用意されています。

リソースは static content の場合と dynamic content の場合があります。例えば、開発者がアプリケーションに含めるように選択した PDF フォーマットのドキュメントや HTML フォーマットのヘルプシステムもあれば、必要に応じて作成されるレポートや通知もあります。これらのリソースはすべて NX^J コントロールセンタの Web ページを経由してアクセスし、管理します。この Web ページを NX^J コントロールセンタビューと呼びます。

以下の図は、一般的な NX^J コントロールセンタビューです。



このビューの
カレントページ

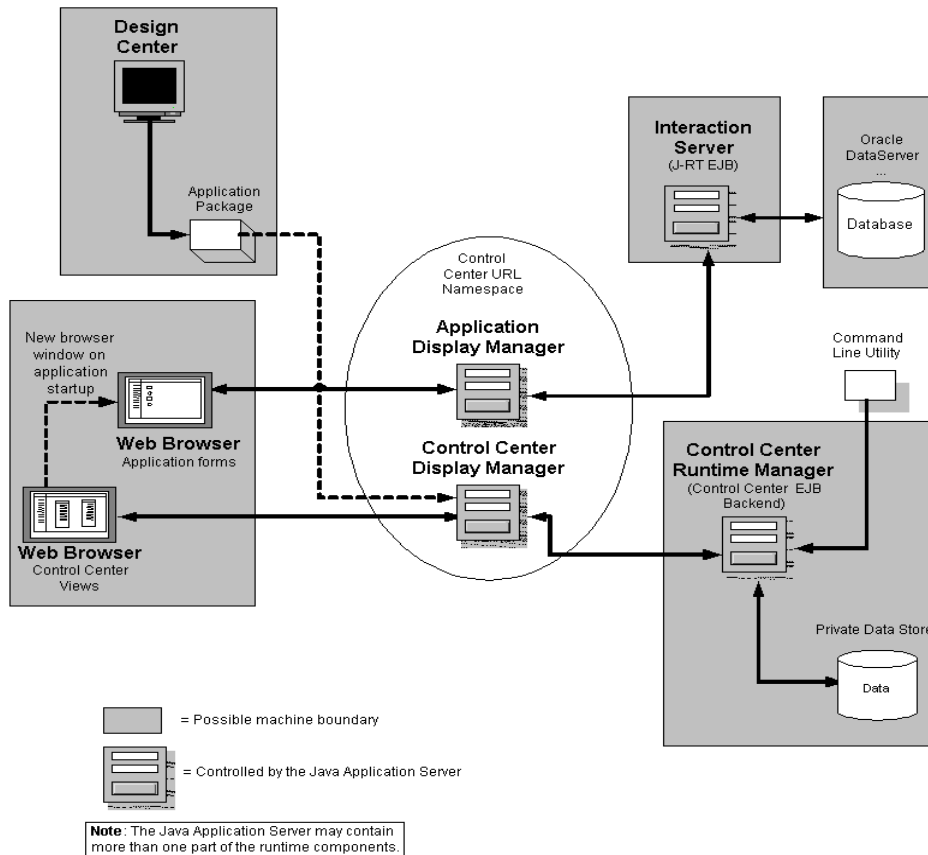
dynamic content への
リンク

アプリケーションへの
リンク

管理者ページへの
リンク

Unify NX^J 実行環境

NX^J コントロールセンタアプリケーションは、Unify NX^J 実行環境で実行され、以下のようなコンポーネントがあります。



NX^J コントロールセンタにアクセスできるようにするには、アプリケーションサーバに配備します。他の Web アプリケーションと同じように、通常、NX^J コントロールセンタのビューとリソースには、Web ブラウザでアクセスします。

ユーザがアプリケーションを起動すると、Unify NX^J インタラクションサーバによって実行、データベースアクセス、アプリケーションの表示とデータ入力及管理されます。NX^J コントロールセンタでは管理されません。

Unify NX^J 実行環境では、以下のセクションで説明するように、NX^J コントロールセンタ管理者が Unify NX^J アプリケーションを配備します。

NX^J コントロールセンタ管理者

NX^J コントロールセンタ管理者は、ユーザがアクセスできるように Unify NX^J アプリケーションを配備し、NX^J コントロールセンタのアプリケーションや他のリソースを管理する、NX^J コントロールセンタユーザの特別なタイプです。

Unify NX^J アプリケーションは、配備後すぐに使用できるようにパッケージ化されています。つまり、NX^J コントロールセンタセキュリティシステムに適合するセキュリティ要件と、アプリケーションのエントリポイントを既存のメニューへのメニュー項目として追加する手順が含まれています。

NX^J コントロールセンタ管理者は、セキュリティシステムやメニュー配置を自分が把握しているアプリケーションのユーザ情報に合わせて変更する場合もあります。

NX^J コントロールセンタ管理者は、NX^J コントロールセンタリソースに関する情報をユーザに発行するために通知を使用します。通知とは、それぞれのユーザのビューに表示されるテキストメッセージです。

NX^J コントロールセンタ管理者は、リソースの管理等の作業を実行するために NX^J コントロールセンタの管理者ページを使用します。

NX^J コントロールセンタのリソース

リソースとは、ユーザが NX^J コントロールセンタからアクセスするものです。具体的な内容は、以下のとおりです。

- アプリケーションのエントリポイント

アプリケーションのエントリポイントとは、アプリケーションパッケージのエントリポイントとして定義されたフォーム、もしくは static content ファイルです。

- メニュー

メニューはメニュー項目のまとまりを提供するために使用され、リソースにアクセスするためのものです。NX^J コントロールセンタのリソースはすべて、メニュー項目からアクセスすることも、URL から直接アクセスすることもできます。

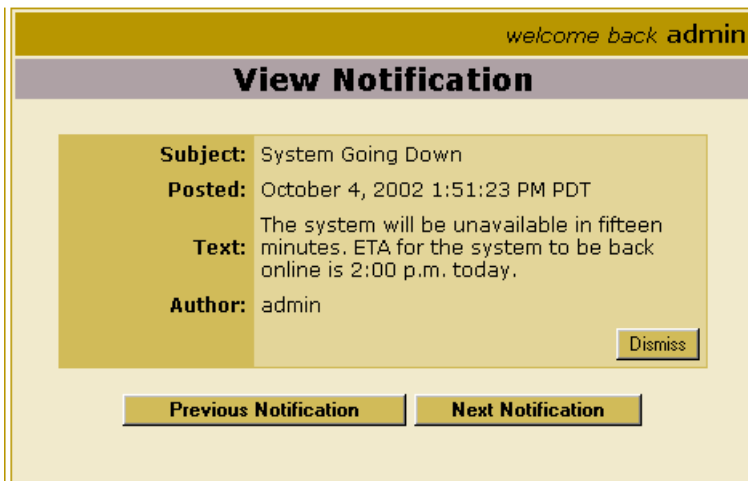


アプリケーションパッケージには、パッケージのエントリポイントをメニューに追加する手順が含まれています。メニューがNX^J コントロールセンタにない場合は作成されます。

- Dynamic content

動的に発行されるコンテンツの1つに、通知があります。通知とは、NX^J コントロールセンタ管理者や Unify NX^J アプリケーションが作成する情報メッセージであり、特定のユーザやユーザグループが宛先となっています。例えば、アプリケーションを再配備する必要がある場合、NX^J コントロールセンタ管理者はユーザに一定期間アプリケーションが使用できないことを通知します。

通知のサンプルを以下の図に示します。



- Static content

static content ファイルは、指定されたビューを使えば実行環境で表示できます。例えば、PDF ファイルを表示するには Adobe Acrobat Reader が必要です。static content ファイルは、アプリケーションパッケージに含めたり、または NX^J コントロールセンタ管理者が追加することもできます。

NX^J コントロールセンタのセキュリティ

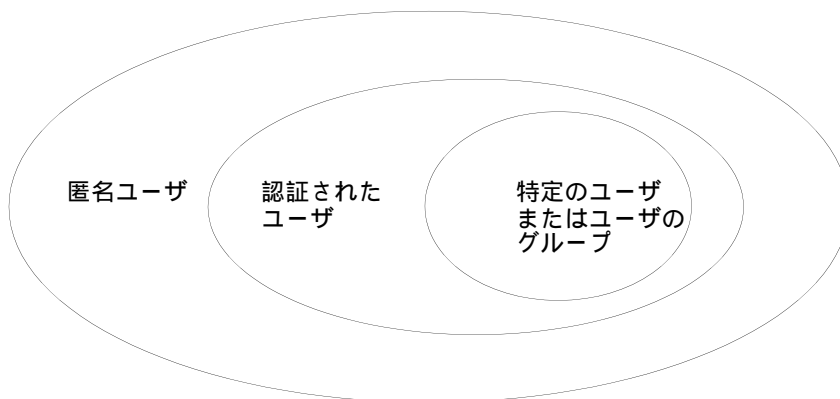
このセクションでは、NX^J コントロールセンタのセキュリティを理解する場合に重要となる基本概念を説明します。セキュリティシステム実装の詳細については、[15 ページの「セキュリティ」](#)を参照してください。

NX^J コントロールセンタは、J2EE 環境のセキュリティアーキテクチャを使用しています。これは、アプリケーションサーバのユーザ ID とグループ ID が NX^J コントロールセンタで識別できることを意味します。このような関係があるため、NX^J コントロールセンタは認証されたユーザを判断できます。

管理者が NXJ コントロールセンタで設定するセキュリティシステムは、アクセスコントロールという概念に基づいています。アクセスコントロールは、ユーザのカテゴリと保護対象のリソースという2つのコンポーネントを組み合わせたものであると考えればいいでしょう。また、アクセスコントロールには、アプリケーションパッケージの配備のように、ユーザが NXJ コントロールセンタで実行できるアクションを割り当てます。

その場合、アクセスコントロールは、NXJ コントロールセンタのユーザのカテゴリに基づいています。匿名ユーザとは、ログインせずに NXJ コントロールセンタを使用するユーザです。認証されたユーザとは、正しくログインして NXJ コントロールセンタビューを使用しているユーザです（認証を行うのは、アプリケーションサーバのセキュリティシステムで、NXJ コントロールセンタが認証するわけではありません）。アクセスコントロールで指名ユーザやグループを指定することもできます。これらのユーザもアプリケーションサーバセキュリティシステムによって資格が確認されるので、認証されたユーザです。

以下の図にユーザの関係を示します。



アプリケーションパッケージのアクセスコントロールは、パッケージが作成された時点で定義されます。パッケージを作成する前に、アプリケーション開発者はエントリポイントにアクセスして、データベースが操作できるユーザのカテゴリを指定します。

アプリケーションパッケージのセキュリティに関する詳細については、『Unify NXJ 開発者ガイド』を参照してください。

Unify NX^J 新規インストール後のデフォルトでは、NX^J コントロールセンタのセキュリティには制限がなく、匿名ユーザは任意のリソースにアクセスして任意のアクションを実行できます。NX^J コントロールセンタ管理者として行動できるユーザを決定して NX^J コントロールセンタを更新し、できるだけ早くデフォルトのセキュリティ設定を変更してください。詳細については、[12 ページの「NX^J コントロールセンタ管理者の割り当て」](#)を参照してください。

Groups のサポート

Groups は、Unify NX^J が以下のアプリケーションサーバで実行している場合に、サポートされます。

- BEA WebLogic 6.1 Service Pack 3 と 7.0 Service Pack 2
- IBM WebSphere 4.x
- Unify eWave Engine

Groups は、Unify NX^J が Borland Enterprise サーバ、または Oracle9iAS Containers for J2EE(OC4J) で実行している場合は、サポートされません。

NX^J コントロールセンタでの 作業開始

2

この章では、NX^J コントロールセンタの設定方法と、実運用環境で使用方法を説明します。このプロセスの基本ステップは、以下とおりです。

1. NX^J コントロールセンタにアクセスする。
2. NX^J コントロールセンタ初期ビューの主要領域を理解する。
3. NX^J コントロールセンタ 管理者になるユーザを指定する。

NX^J コントロールセンタへのアクセス

デフォルトでは、NX^J コントロールセンタはインストール時にアプリケーションサーバに配備されます。配備された NX^J コントロールセンタには、以下の方法でアクセスできます。

Windows では、**スタート > プログラム > Unify NXJ > コントロールセンタ > < コントロールセンタ名 >** を選択します。

この場合の

<コントロールセンタ名> は、アクセスしようとする NX^J コントロールセンタインスタンスです。

デフォルトの NX^J コントロールセンタは ControlCenter です。NX^J コントロールセンタが配備されていない場合は、NX^J コントロールセンタのサブメニューには、何も表示されません。ccmanage ユーティリティを使って、NX^J コントロールセンタを配備する必要があります。このユーティリティの詳細い使い方については、[57 ページの付録 A 「ccmanage ユーティリティ」](#) を参照してください。

UNIX では、[9 ページ](#) に示されるように、Web ブラウザでコントロールセンタの URL を入力します。

コマンドを入力すると、Unify NX^J で認証された Web ブラウザの 1 つを使って、Web ブラウザセッションが始まります (Windows の場合、Unify NX^J でホスト上のブラウザの位置を指定することが必要です)。NX^J コントロールセンタビューが Web ブラウザに表示されます。

または、任意のホストの Web ブラウザから、配備された NX^J コントロールセンタにアクセスすることもできます。NX^J コントロールセンタの URL は、以下のとおりです。

http://machine:port/ControlCenterName

この場合の

machine は、NX^J コントロールセンタが配備されたホスト名を表します。

port は、アプリケーションサーバの http ポート番号で、NX^J コントロールセンタの配備時に指定されます。デフォルトは、使用しているアプリケーションサーバで固有のものです。

ControlCenterName は、NX^J コントロールセンタの名称で、NX^J コントロールセンタの配備時に指定されます。デフォルトは **ControlCenter** です。

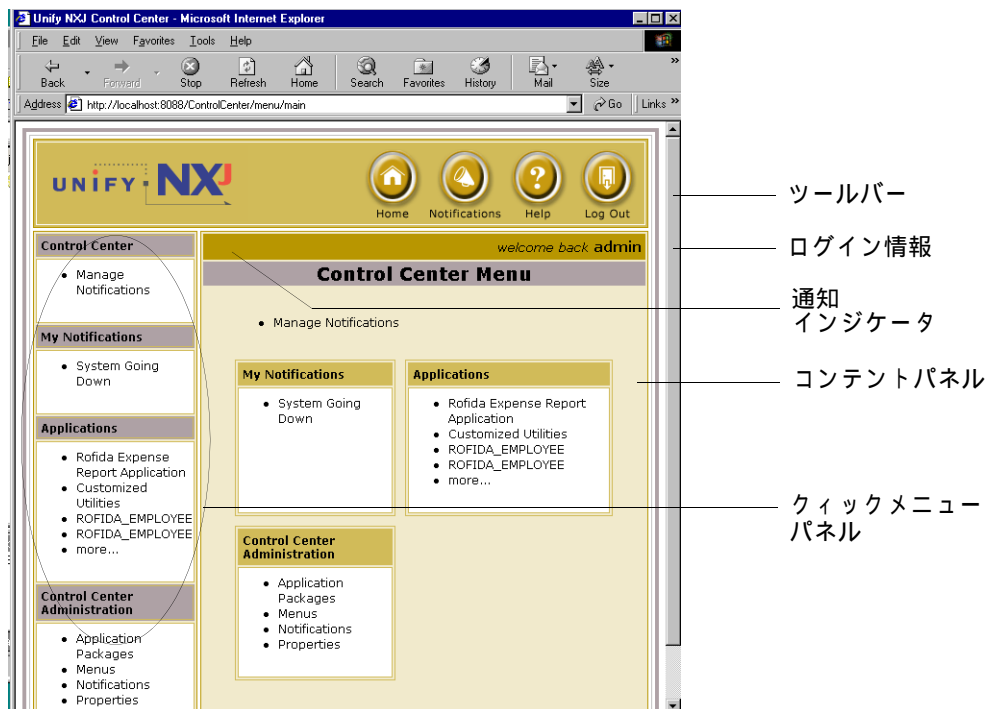
インストール時以外に NX^J コントロールセンタを配備する場合は、**ccmanage** ユーティリティを使用します。このユーティリティの詳細な使い方については、[57 ページの付録 A 「ccmanage ユーティリティ」](#)を参照してください。

NX^J コントロールセンタビューを終了する場合は、Web ブラウザのウィンドウを閉じます。(NX^J コントロールセンタアプリケーションは、アクティブビューセッションの数には影響されません。) NX^J コントロールセンタアプリケーションは、個別に管理されています。付録 A を参照してください。

注 – NX^J コントロールセンタで使用できる Web ブラウザの最新情報は、Unify NX^J ReadMe を参照してください。

NX^J コントロールセンタメニュービュー

NX^J コントロールセンタを使って実行環境を管理するとき、ユーザの要求に合うようにカスタマイズすることも必要となります。NX^J コントロールセンタの初期ビュー（カスタマイズやアクセスコントロールが追加される前のビュー）は、次のページに示すような NX^J コントロールセンタメニューです。



コンテンツパネルは、NX^J コントロールセンタの主要作業領域です。デフォルトのコンテンツパネルには、NX^J コントロールセンタの“メイン”メニューがあり、以下の項目があります。

- Manage Notifications
- My Notifications (サブメニュー)
- Applications (サブメニュー)
- Control Center Administration (サブメニュー)




クイックメニューパネルは、ユーザが指定した共通メニューを表示するためのパネルです。ユーザは、クイックメニューパネルに表示されている以外の項目にもアクセスできます。

ユーザがクイックメニューパネルで選択した項目が、コンテンツパネルに表示されます。クイックメニューパネルの項目を選択すると、例えば Unify NX^J アプリケーションのインタラクションサーバウィンドウのような別のウィンドウが開くことがあります。コンテンツパネルに表示される内容と変わりはありません。

また、クイックメニューには、専用の文脈対応メニューが表示されます。このメニューは特定の管理者ページで使用します。

ツールバーには、以下のボタンがあります。

表 2-1 NX^J コントロールセンタツールバーのボタン

ボタン	説明
	Home ボタンをクリックすると、カレントユーザの HOME リソースが表示されます。デフォルトの HOME リソースは、 10 ページ の「 NX^J コントロールセンタメニュービュー 」に示されている NX ^J コントロールセンタの“メイン”メニューです。
	Notification ボタンをクリックすると、My Notifications のページが表示されます。このボタンは、クイックメニューパネルから My Notifications menu を選択した場合と同じ結果になります。
	Help ボタンをクリックすると、カレントページのヘルプがコンテンツパネル内に表示されます。
	Log In ボタンをクリックすると、NX ^J コントロールセンタにログインできるログインページが表示されます。NX ^J コントロールセンタは、ログイン資格を検証するためにアプリケーションサーバに問い合わせます。正しくログインすると、 認証されたユーザ として識別されます。
	Log Out ボタンをクリックすると、NX ^J コントロールセンタからログアウトします。つまり、認証されたユーザから認証されていないユーザへと変わります。NX ^J コントロールセンタビューは終了しません。

ログイン情報領域には、ログイン状況が表示されます。NX^J コントロールセンタに正しくログインすると、ログイン情報領域にログイン名が表示されます。それ以外の場合は、“ログインしていません”というメッセージが表示されます。

通知インジケータには、未読の通知数が表示されます。このインジケータは、認証されたユーザに対してのみ表示されます。

NX^J コントロールセンタ リソースで有効なアクセスコントロールによっては、ログインが必要な場合と必要でない場合があります。デフォルトでは、新規インストール後のすべてのユーザが、すべてのリソースを表示できるので、ログインの必要はありません。

NX^J コントロールセンタ管理者の割り当て

NX^J コントロールセンタのリソースを保護するために、ユーザアクセスを制限する必要があります。Unify NX^J は、どのNX^J コントロールセンタのユーザが管理者のロールで動作できるかを指定できるように、コントロールセンタ管理者ロールを提供しています。NX^J コントロールセンタ管理者は、どのアクションも実行できる点に注意してください。

インストール直後のNX^J コントロールセンタでは、NX^J コントロールセンタにアクセスするユーザをすべてNX^J コントロールセンタ管理者として扱うように設定されています。つまり、認証されているかどうかにかかわらず、すべてのユーザがどのようなアクションでも実行できます。(認証されたユーザとは、アプリケーションサーバに証明を認識されているユーザです。)

NX^J コントロールセンタ管理者になるユーザ (またはユーザのグループ) のリストを定義した場合には、すぐにNX^J コントロールセンタ管理者を必要とするリソースやアクションを指定します。


NX^J コントロールセンタ管理者として動作できるユーザを指定するステップは、以下のとおりです。このステップは、自分を管理者に指定する場合にもあてはまります。

1. NX^J コントロールセンタ管理者になるユーザのユーザ名やグループ名を取得します。

ユーザおよびグループの名称は、アプリケーションサーバが使用しているセキュリティプロバイダによって定義されています。このため、NX^J コントロールセンタで指定する名称やグループは、これらの名称と完全に一致している必要があります。

2. NXJ コントロールセンタで、**Control Center Administraton > Properties > Administrators** を選択します。

Control Center Properties - Administrators ページが表示されます。



3. “Administrators:” ドロップダウンリストで、NXJ コントロールセンタ管理者のロールで動作させたいユーザのカテゴリを選択します。

All users

認証されているかどうかにかかわらず、NXJ コントロールセンタのどのユーザでも管理者になります。これは、デフォルトです。

Only authenticated users

正しくログインしたユーザだけが管理者になります。正しくログインするには、アプリケーションサーバが使用しているセキュリティプロバイダにユーザの証明が認識されている必要があります。

Specified users and/or groups

特定のユーザやグループだけが管理者になります。

複数のユーザ名やグループ名がある場合は、カンマで区切ります。

警告 – 自分自身を NXJ コントロールセンタ管理者にしたい場合は、必ず自分のユーザ名または自分が所属するグループ名を含めてください。そうしないと、変更を適用した後は NXJ コントロールセンタへのアクセスが拒否されてしまいます。

-
4. **Submit** ボタンをクリックします。
 5. ログインページが表示されたら、このページを使ってNX^J コントロールセンタにログインします。

ログインページは、NX^J コントロールセンタにログインしておらず、カレントビューが認証を要求している場合に表示されます。

NX^J コントロールセンタ管理者には、NX^J コントロールセンタリソースのセキュリティを設定して管理する責任があります。

NX^J コントロールセンタは Web ブラウザからアクセスするため、データソースは通常のビジネスアプリケーション内にある場合よりも外部にさらされています。このため、アプリケーションが必要とするデータ保護のレベルと同じセキュリティを設定することは、非常に危険です。

NX^J コントロールセンタのセキュリティモデルは単純です。各リソースと、NX^J コントロールセンタでユーザが実行できる各 *Action* に *Access Control* があります。アクセスコントロールの条件に合うユーザだけが、リソースにアクセスしたりアクションを実行したりできます。さらに、アクセスコントロールの条件に合わないユーザには、アクセスコントロールの条件があるリソースとアクションのメニュー項目は表示されません。ただし、ユーザが匿名ユーザであり、リソースが “Allow Anonymous Users” *Access Control* を指定している場合は、表示されます。

Access Control

アクセスコントロールは、以下の NX^J コントロールセンタユーザのカテゴリに基づいています。

- ログインせずに NX^J コントロールセンタビューを使用しているユーザは、*匿名ユーザ*または認証されていないユーザとして識別されます。
リソースの一部、または全部が全ユーザに対応する場合、ユーザは NX^J コントロールセンタにログインする必要はありません。
- NX^J コントロールセンタにログインしたユーザは、*認証されたユーザ*として識別されます。

ユーザ名とパスワードが NX^J コントロールセンタに受け付けられると、ユーザは認証され、NX^J コントロールセンタが配備されたアプリケーションサーバのセキュリティシステムに識別されます。

NXJ コントロールセンタのセッション中、ユーザはいつでも匿名ユーザから認証されたユーザに変わることができます。また、認証されたユーザだけが利用できるリソースに匿名ユーザがアクセスしようとする、NXJ コントロールセンタはログインを要求します。

NXJ コントロールセンタで、以下の3つの Access Control タイプのうちどれか1つを指定して、アクセスコントロールを割り当てます。

表 3-1 Access Control タイプ

Access Control タイプ	説明				
All users	任意のユーザのアクセスを許可します。この場合、匿名ユーザでも認証されたユーザでもかまいません。つまり認証は不要であり、同時にいかなる認証も許可されます。				
Only authenticated Users	任意の認証されたユーザのアクセスを許可します。				
Specified users and/or groups	以下のいずれかのリスト、または両方のリストのユーザのアクセスだけを許可します。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">Users</td> <td>ユーザリストに含まれているユーザのアクセスを許可します。</td> </tr> <tr> <td style="padding-right: 10px;">Groups</td> <td>グループのリストに含まれるグループのメンバーである場合、ユーザのアクセスを許可します。</td> </tr> </table>	Users	ユーザリストに含まれているユーザのアクセスを許可します。	Groups	グループのリストに含まれるグループのメンバーである場合、ユーザのアクセスを許可します。
Users	ユーザリストに含まれているユーザのアクセスを許可します。				
Groups	グループのリストに含まれるグループのメンバーである場合、ユーザのアクセスを許可します。				

認証されたユーザと同じように、Users と Groups はアプリケーションサーバが提供するセキュリティによって定義されます。グループとは、“employees” のような指定されたユーザのまとまりです。アプリケーションサーバで許可されていれば、Groups には他のグループを含めることができます (Unify eWave エンジンでは、サポートされていません)。

Read Access Control と Write Access Control

前での説明のように、それぞれのリソースには2つのアクセスコントロールがあり、効力を持っています。1つは Read Access、もう1つは Write Access です。

Read Access

このリソースを表示するために、必要な Access Control を指定します。これは、このリソースを参照するメニュー項目が、ユーザのメニューで許可されていることを表します。例えば、あるレポートの Read アクセスに All users タイプのアクセスコントロールがあれば、NX^J コントロールセンタのすべてのユーザがこのレポートを表示できます。

Write Access

リソースの 1 つ、または複数の特性を表示したり変更したりするために必要な Access Control を指定します。以下のように、アクセスコントロールのタイプによって異なります。

- アプリケーションのエントリポイントの場合、Write Access によってユーザはメニュー項目のテキストを変更できます。

アプリケーションリソースを削除したり、開発者が定義した Access Control プロパティを変更したりすることはできません。

- メニューの場合、ユーザはメニュー項目を追加 / 削除できます。ユーザにメニュー（アクション）を追加 / 削除するパーミッションがあれば、メニューそのものを削除することもできます。

注 – NX^J コントロールセンタ管理者には、すべてのアクションを実行する権限が暗黙的に与えられていますが、アクションを完了するには Write アクセスが必要です。

NX^J Control Center の Actions

Actions とは、NX^J コントロールセンタで実行できる作業であり、Access Control を割り当てることができます。以下のようなアクションがあります。

- アプリケーションパッケージの配備、再配備、または削除
- 通知の作成、または削除
- メニューの作成、または削除
- ユーザ / グループにアクションのアクセスを許可

注 – アクションを正しく終了するには、ユーザはどの関連リソースに対するアクセスコントロールの条件にも適合している必要があります。例えば、メニューを削除する場合、ユーザはメニューの作成 / 削除アクションを実行できるだけでなく、削除するメニューの Write アクセスも持っている必要があります。

Actions の Access Control をカスタマイズ

デフォルトでは、NXJ コントロールセンタ管理者だけがアクションを実行できます。開発者は、NXJ コントロールセンタの他のユーザが 1 つまたは複数のアクションを実行できる権限を与えることができます。

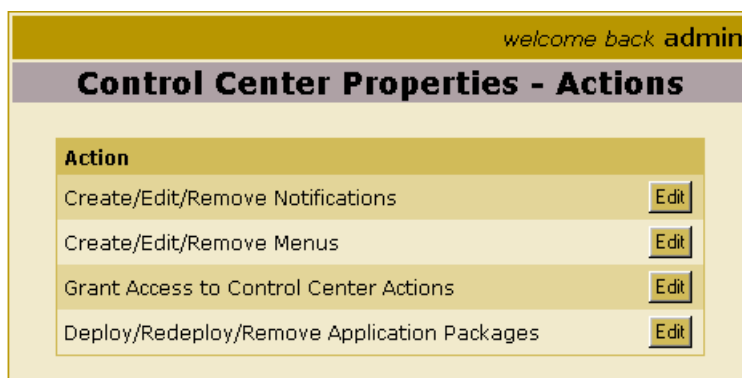
ただし、NXJ コントロールセンタ管理者がアクションを実行するのを妨げることはできません。言い換えるなら、NXJ コントロールセンタ管理者は、アクションを実行するためのアクセスが常に許可されています。

Actions の Access Control を変更するステップは、以下のとおりです。

1. **Control Center Administration > Control Center Properties > Actions** を選択します。

Control Center Properties - Actions ページが表示されます。

このページを開くには、“Grant Access to Control Center Actions” の権限が必要です。(NXJ 管理者には、すべてのアクションの権限があります。)



2. カスタマイズしたいアクションの **Edit** ボタンをクリックします。

Control Center Properties - Edit Action ページが表示されます。

Control Center Properties - Edit Action

Action: Grant Access to Control Center Actions

Access Control: None

Users:

Groups:

also allow Control Center Administrators

Note that Control Center administrators always have permission to perform Control Center actions regardless of any action permission settings.

読み取り専用のこのフィールドには選択したアクションが表示される

3. Access Control ドロップダウンリストから、このアクションに関連付けるアクセスコントロールのタイプを選択します。

ドロップダウンリストには、以下の4つの選択肢があります。

- None
- All users
- Only authenticated users
- Specified users and/or groups

このオプションを選択する場合は、アクションが実行できるユーザやグループも指定する必要があります。ユーザ名やグループ名を入力してください。

これらのオプションについては、[16 ページの表 3-1](#) を参照してください。

注 – “also allow Control Center Administrators” チェックボックスはセットされますが、コントロールセンタ管理者がどんなアクションも常に実行することができることを示して無効となります。この設定を変更することはできません。

4. **Submit** ボタンをクリックします。

Resource の Access Control をカスタマイズ

リソースのアクセスコントロールをカスタマイズする方法は、以下のようにリソースによって異なります。

- Menus

Control Center Administration > Menus を選択し、アクセスコントロールの割り当てや変更を行うメニューの **Edit** ボタンをクリックします。

Recipients のカスタマイズ

以下のように、受取人をカスタマイズします。

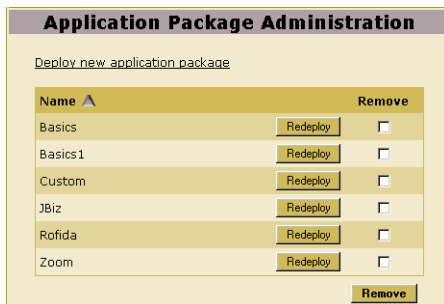
- Notifications

Control Center Administration > Notifications を選択し、アクセスコントロールの割り当てや変更を行うダイアログの **Edit** ボタンをクリックします。

アプリケーションの 配備と管理

4

アプリケーションの配備と管理の作業はすべて、Application Package Administration ページから開始します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。



このページは、デザインセンタから NX^J コントロールセンタに、現在配備されているすべてのアプリケーションパッケージを一覧します。例えば、上の図には Basics、Basics1、Custom、JBiz、Rofida、Zoom の 6 つの配備されたアプリケーションがあります。

このページを使って、以下の作業を行うことができます。

- 新規アプリケーションパッケージの配備
- 既存のアプリケーションパッケージの再配備
- アプリケーションパッケージの削除

新規アプリケーションパッケージの配備

Unify NX^J デザインセンタで作成したアプリケーションパッケージだけが、NX^J コントロールセンタで配備できます。Unify NX^J アプリケーションパッケージの作成については、『Unify NX^J 開発者ガイド』を参照してください。

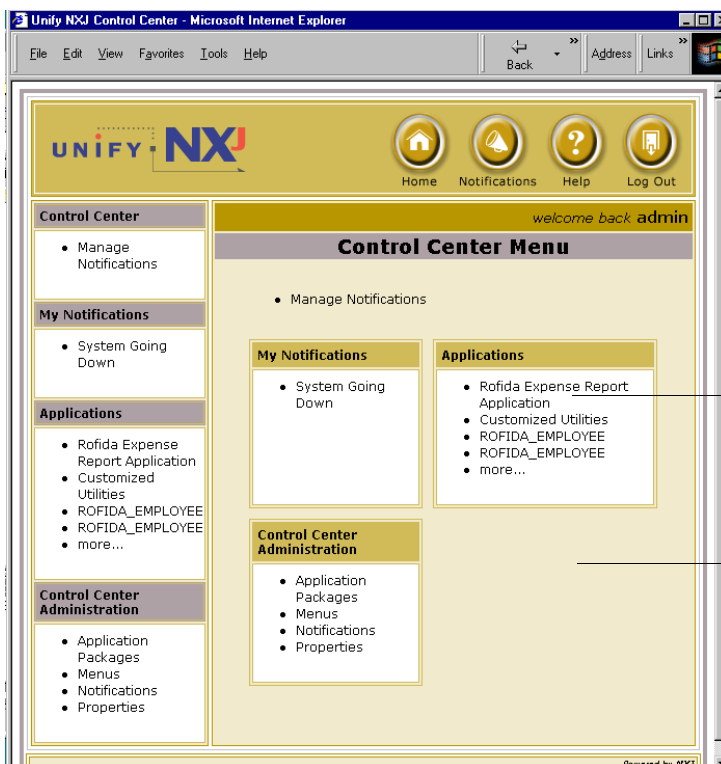
アプリケーションの配備

アプリケーションパッケージを配備すると、アプリケーションのメニューとアクセスコントロール情報がNX^J コントロールセンタにインストールされ、NX^J コントロールセンタのユーザは、パッケージのフォームと他のリソースを利用できるようになります。

アプリケーションパッケージには、メニュー定義が含まれている必要はありません。その場合は、NX^J 管理者ページを使ってエントリポイントをメニュー項目としてメニューに追加したり、URL から直接エントリポイントにアクセスすることができます。

Menu 情報

アプリケーションパッケージは、エントリポイント名を追加するメニューの名称や、追加するエントリポイントオブジェクトを含んでいます。デフォルトでは、デザインセンタのプロジェクトは、アプリケーションメニューにエントリポイントを配置します。プロジェクトが配備されると、エントリポイントは以下に示すように、NX^J Control Center Menu ページのメニュー項目として表示されます。



Application Menu への新規エントリポイントはここに追加される

次の新規 Menu はここに追加される

Access Control 情報

アプリケーションパッケージのアクセスコントロール情報には、アプリケーションの定義済みエントリポイントごとにアクセスコントロールがあります。つまり、デフォルトを適用することで、以下のアクセスコントロールのいずれかを暗黙的、または明示的に指定することになります。

- All Users (デフォルト)
- Only Authenticated Users
- Specified Roles

この場合は、アクセスコントロールリストで1つまたは複数のロールを指定します。アプリケーションパッケージが配備されると、実行環境に実際に存在するユーザやグループに、これらのロールをマップします。

アプリケーションが配備されると、アクセスコントロール条件に適合するユーザには、NX^J コントロールセンタビューでメニュー項目（新規メニューの場合はそのメニュー）が表示されます。

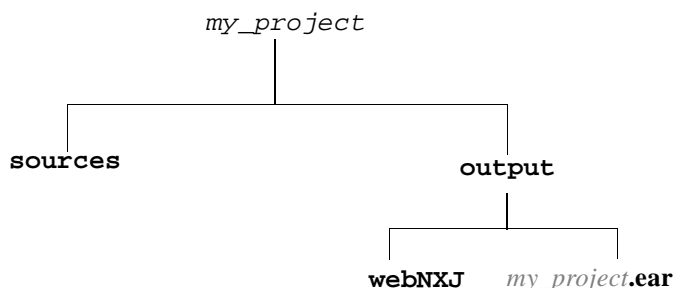
注 – 新規に追加したメニュー項目のメニューを調べたとき、アプリケーションパッケージの配備が失敗したように見えることがあります。アクセスコントロールの条件に合わない場合は、参照しなくてかまいません。代わりに、配備状況を表示するために、NX^J Control Center Administration ページを使用します。

初めてアプリケーションパッケージを配備する場合は、以下のステップに従います。

タスク 1：アプリケーションパッケージの場所

アプリケーションパッケージは、Web ブラウザを実行するホストからアクセスできる必要があります。つまり、配備するにはディレクトリとアプリケーションパッケージを読み込むパーミッションが必要です。

アプリケーション開発者からアプリケーションパッケージファイルを取得するか、その場所を取得します。アプリケーションパッケージとは、デザインセンタのプロジェクト名と同じ名前を持つ .ear ファイルです。 .ear ファイルは、以下のようなプロジェクトの “output” ディレクトリに作成されています。



my_project ディレクトリは、アプリケーション開発者がプロジェクトを作成したときに指定したプロジェクトの名前です。デフォルトでは、Design Center プロジェクトは、<Unify NXJWork>/**projects** に作成されます。

タスク 2：アプリケーションパッケージの配備

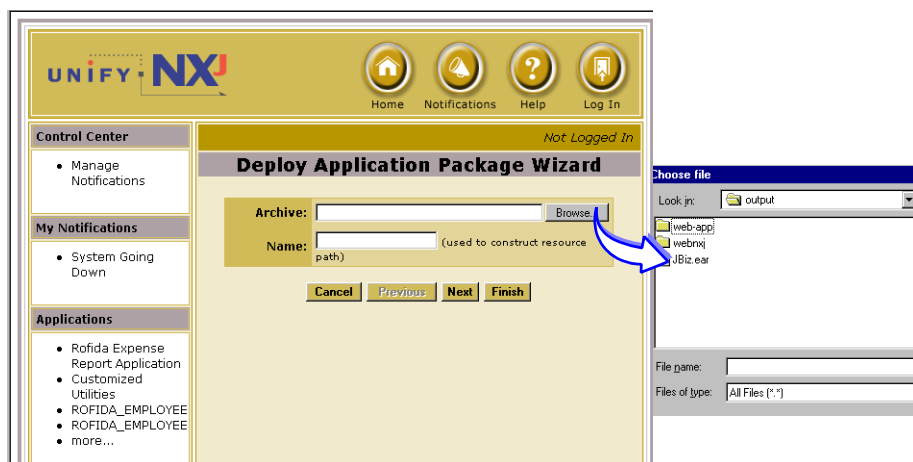
Deploy Application Package Wizard を利用して、アプリケーションパッケージを配備します。ウィザードが情報を収集してアプリケーションを配備します。

Deploy Application Package Wizard は、以下のステップで使用します。

1. **Control Center Administration > Application Packages** を選択します。
Application Package Administration ページが表示されます。
2. **Deploy new application package** のリンクをクリックします。
ウィザードの最初のパネルが表示されます。
3. 次に Archive フィールドで、ファイルの選択をアクセスするために**参照** ボタンをクリックしてアプリケーションパッケージの .ear ファイルを探し、探した .ear ファイル名をダブルクリックします。

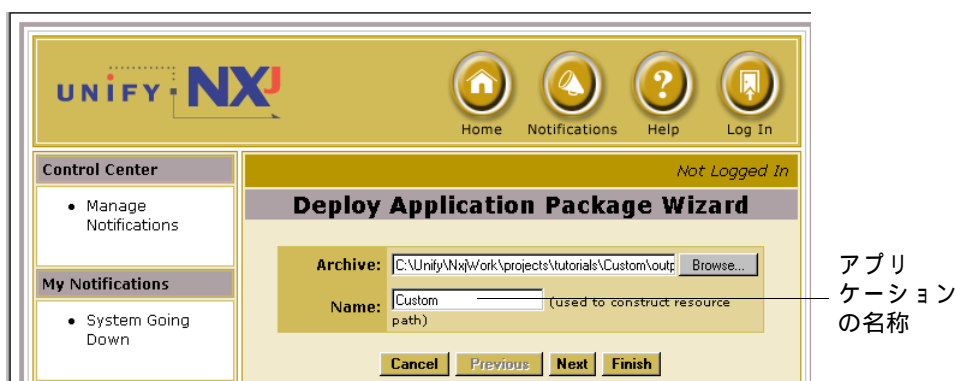
パッケージのファイル名が、Archive フィールドに表示されます。

または、Archive フィールドに .ear ファイルへのフルパス名を入力することもできます。



注 – アプリケーションパッケージが、後続の配備情報を必要としない場合は、配備を完了するために **Finish** ボタンをクリックすることができます。 [28 ページの「タスク 3: アプリケーションのテスト」](#) に移動します。

4. Name フィールドで、デフォルト名のためにフィールドをクリックするか、NXJ コントロールセンタのアプリケーションの名前を入力します。



このパネルで指定する名前は、メニュー定義の一部ではないので、ユーザには見えません。NX^J コントロールセンタシステムでユニークにアプリケーションのリソースを識別しています。

このため、入力する名称は NX^J コントロールセンタでユニークであることが必要です。Name フィールドをクリックすると、フィールドにはデフォルト名が適用されます。デフォルト名は、アーカイブのファイル名と同じで、拡張子はありません。

5. **Next** ボタンをクリックすると Connection Mapping パネルが開きます。

このパネルは、アプリケーションパッケージが接続定義を含む場合にだけ表示されます。

アプリケーションサーバに識別されるデータソース

アプリケーションパッケージの各接続定義は、“Connection” の列のパネルの左側に表示されます。ドロップダウンリストボックスから関連するデータソース名を選択します。リストボックスの項目は、アプリケーションサーバに現存するデータソース定義に基づいています。

このアプリケーションが必要とするデータソースがリストにない場合、アプリケーションサーバインタフェースを使って、データソースを定義してから配備します。

デフォルトでは、データソースがある場合、接続はマップ先の名称と一致するデータソースにマップされます。

注 - 注 : WebLogic 6.1 では、Data Sources と Tx Data Sources の 2 つのデータソースがサポートされていますが、NX^J アプリケーションでは Tx Data Sources のみ動作します。

6. **Finish** ボタンをクリックすると配備が完了します。

配備が完了すると、アプリケーションパッケージがアプリケーションサーバに配備されます。

タスク 3 : アプリケーションのテスト

アプリケーションパッケージが配備されると、アプリケーションアクセスがテストできます (認証されたアプリケーションユーザの場合)。

アプリケーションによって追加された新規メニュー項目を指定し、正しいエントリーポイントフォームが表示されていることを確認します。

デフォルトでは、アプリケーションエントリーポイントはアプリケーションメニューに追加されます。アプリケーションパッケージのメニュー定義についてさらに詳しい情報が必要な場合は、アプリケーション開発者に確認してください。

以下のアプリケーションのカスタマイズを行うことができます。

- メニューの変更

タスク 4 : アプリケーションが利用できることをユーザに通知

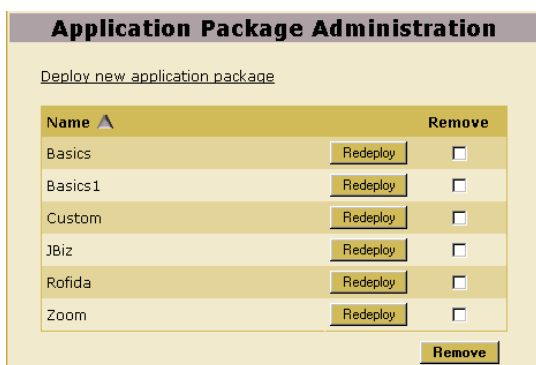
アプリケーションユーザに利用できることを通知するには、NX^J コントロールセンタ通知を作成します。通知対象者が、新しく配備したアプリケーションのユーザであることを確認します。

ユーザには、アプリケーションにアクセスするために使用するメニューを必ず伝えます。

通知についての詳細は、[46 ページの「通知管理」](#)を参照してください。

配備されたアプリケーション情報の表示

配備されたアプリケーションは、Application Package Administration ページを使って表示します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。



アプリケーションの再配備

アプリケーションを再配備するには、Redeploy Application Package Wizard を使用します。通常、アプリケーションはアプリケーションフォームが追加または変更した場合は、アプリケーションを再配備する必要があります。

Redeploy Application Package Wizard は、すべてのパネルのフィールドが、前に配備したアプリケーションパッケージで指定した内容をデフォルトにしている場合を除いて、Deploy Application Package Wizard と同じパネルを使用します。

アプリケーションパッケージの削除

アプリケーションパッケージと関連リソースをすべてを完全に削除するには、Application Package Administration ページを使用します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Application Packages** を選択します。

格納領域とパフォーマンスを最大化するために、ユーザが必要としなくなったアプリケーションパッケージを削除する必要があります。アプリケーションパッケージはカレントユーザに通知せずに削除できますが、アプリケーションを終了するようにユーザに通知した方が良いでしょう。

アプリケーションパッケージを削除するには、まず **Remove** チェックボックスをセットして、次に **Remove** ボタンをクリックします。

Name ▲		Remove
Basics	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Basics1	Redeploy	<input checked="" type="checkbox"/>
Custom	Redeploy	<input type="checkbox"/>
JBiz	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Rofida	Redeploy	<input type="checkbox"/>
Zoom	Redeploy	<input type="checkbox"/>

NX^J コントロールセンタメニューは、NX^J コントロールセンタで利用可能なリソースへのアクセスを提供します。デフォルトのNX^J コントロールセンタには、変更可能なあらかじめ定義されたメニューが用意されています。また、追加メニューを作成することもできます。あらかじめ定義された“メイン”メニューは、以下のように表示されます。



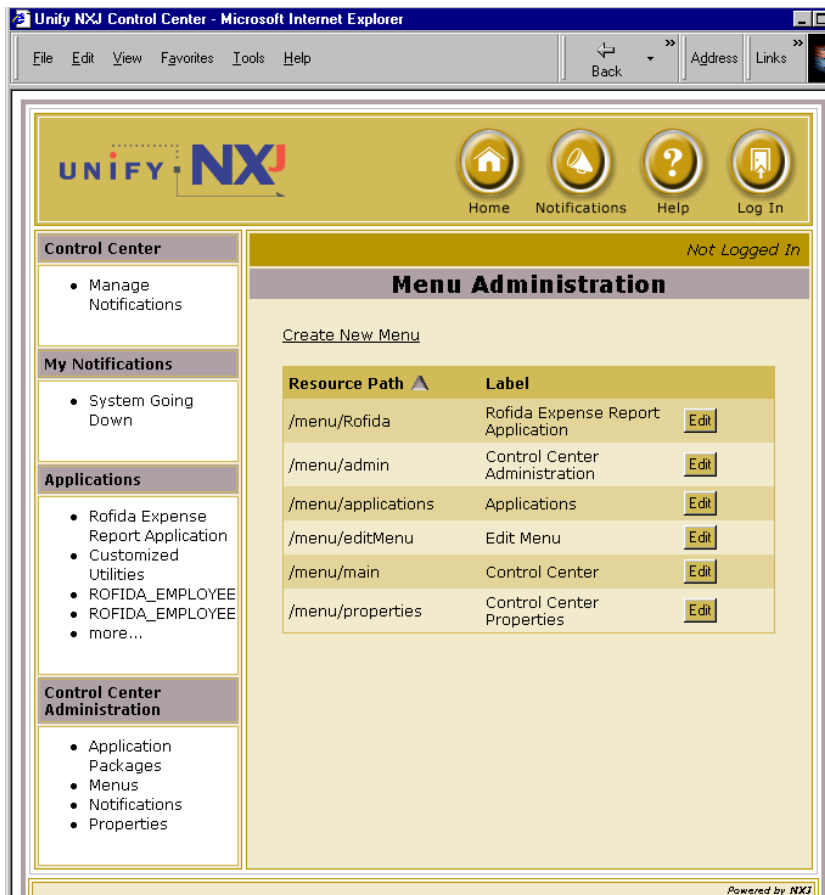
NX^J コントロールセンタメニューには、2つのサブメニューがあります。

- アプリケーションメニュー。アプリケーションエントリポイントのデフォルトメニューとして使用されます。配備するアプリケーションパッケージによっては、別のメニューが表示されることもあります。その場合は、アプリケーションメニューは不要となるため、削除することができます。
- NX^J コントロールセンタ管理メニュー。NX^J コントロールセンタを維持管理するために使用する管理ページへのアクセスを提供します。このメニューは削除できません。ただし、必要に応じてメインメニューから削除できます。

メインメニューページに表示される My Notifications グループは、通知へのアクセスに使用する特別なビューです。

メニュー管理は、すべて Menu Administration ページから開始します。このページにアクセスするには、**Control Center Administration > Menus** を選択します。

このページを表示するには、メニューの変更ができる権限が必要です。すでに説明したように、NX^J コントロールセンタ管理者には、すべてのアクションを実行する権限があります。



Menu Administration ページには、現在 NXJ コントロールセンタで定義されているメニューへのエントリがあります。Resource Path の列には、NXJ コントロールセンタネームスペースのメニューデータの場所が表示されます。メニューのリソースパスは“/menu/menuName”のように表示されます。menuName はメニューの名称です。

メニュー名は、NXJ コントロールセンタ内のメニューをユニークに区別します。このため、新規メニューには既存メニューのいずれとも異なる menuName である必要があります。

Label の列には、関連するメニューのロケール対応ラベルが表示されます。このラベルは、メニュー名として NX^J Control Center ページに表示されるものです。

以下のセクションでは、メニューに関連する次のタスクについて説明します。

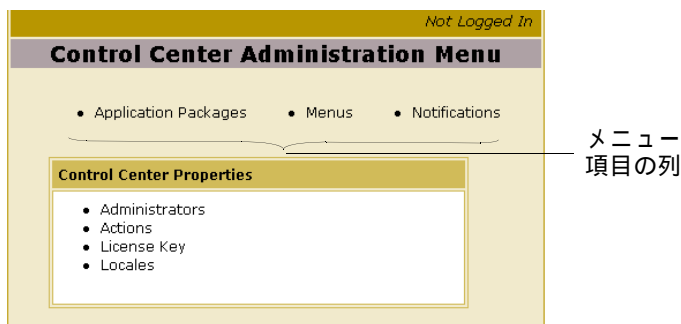
- 新規メニューの作成
- メニュー項目の追加と更新
- メニューの削除
- メニュープロパティの変更
- メニューのアクセスコントロールを設定
- メニューのローカライズ

新規メニューの作成

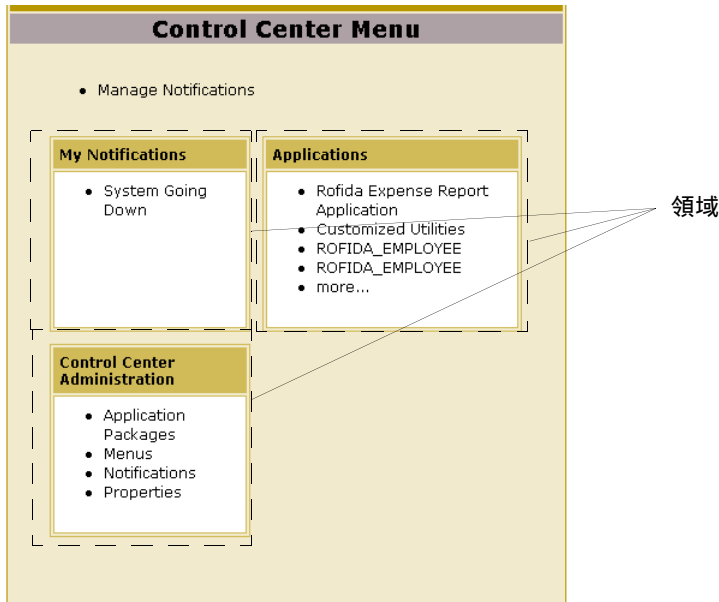
メニューを作成する場合、NX^J コントロールセンタでラベルと配置情報を定義します。メニューを作成するにあたって、以下のようなメニューの特徴を理解しておく必要があります。

- Default Label とはメニューのタイトルです。例えば、以下の “Applications” などです。このラベルは、ロケール対応ラベルがある場合はオーバーライドされるので、“デフォルト” です。
- Default Short Label とは、コンテンツパネルに表示される細長いウィックメニューパネルやメニュー領域に使用するメニューラベルのオプション版です。このラベルはオプションです。入力していない場合は、デフォルトラベルが使用されます。

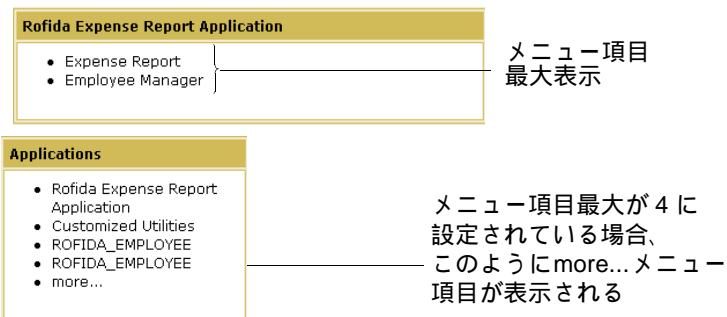
- Menu-item columns では、コンテンツパネルに表示するメニュー項目の列の数を指定します。メニュー項目はこの列で縦に表示され、等間隔で区切られます。デフォルトは3です。例えば、以下のようになります。



- Menu region columns では、コンテンツパネルのメニューに表示するメニュー領域の列の数を指定します。メニュー領域は、このメニューのサブメニューです。デフォルトは2です。例えば、以下のようになります。



- Menu-item max display とは、ウィックメニューパネルやコンテンツパネルの他のメニューでメニュー領域として表示される場合、このメニューで表示するメニュー項目の数です。実際のメニュー項目が指定した値よりも多い場合は“**more ...**”ラベルが表示されます。デフォルトは5です。



メニューに含まれるメニュー項目については、別に定義されています。[39 ページ](#)の「[メニュー項目の追加と更新](#)」を参照してください。

新規メニューを作成するには、以下のステップのとおりです。

1. Menu Administration ページで、**Create New Menu** リンクを選択します。
Create Menu ページが表示されます。

The screenshot shows a web form titled "Create Menu" with a header "welcome back admin". The form contains the following fields and controls:

- Name:** Input field containing "orders" with a note "(used to construct resource path)".
- Default Label:** Input field containing "Orders".
- Default Short Label:** Input field containing "Orders" with a note "(optional)".
- Menu-item columns:** Input field with a note "(blank uses system default: 3)".
- Menu region columns:** Input field with a note "(blank uses system default: 2)".
- Menu-item max display:** Input field with a note "(blank uses system default: 5)".
- Description:** Text area containing "This will contain all applications and reports for the Ordering System." with scrollbars.
- Buttons:** "Submit" and "Reset" buttons at the bottom.

2. Name フィールドに、メニューの名称を入力します。メニューの名称は、NXJ コントロールセンタ内でユニークであり、大文字と小文字を区別する必要があります。
3. Default Label フィールドに、メニューのデフォルトラベルを入力します。
4. (オプション) Default Short Label フィールドに、クイックメニューパネルまたはメニュー領域のデフォルトラベルを入力します。
5. (オプション) Menu-item columns フィールドに、メニューページのメニュー項目セクションで使用する列の数を入力します。
6. (オプション) Menu region columns フィールドに、メニューページのメニュー領域セクションで使用する列の数を入力します。

-
7. (オプション) Menu-item max display フィールドに、NX^J コントロールセンタがクイックメニューパネルまたはメニュー領域にメニューを表示しているときに表示する“メニュー項目”行の最大数を入力します。

値がゼロ (0) の場合は、このメニューには more... を含めて一切の項目が表示されません。この場合、メニューのヘッダだけが表示されます。

8. (オプション) Description フィールドに、メニューの説明を入力します。

説明があると、メニューを管理する場合に便利です。ユーザには、メニューの説明は表示されません。

9. **Submit** ボタンをクリックします。

新規メニューが作成されます。

Edit Menu - Menu Items ページが表示されます。必要に応じて、ここで新しく作成したメニューにメニュー項目を追加することができます。または、後で追加することもできます。

新規メニューには、アクセスコントロールも必ず割り当てます。デフォルトでは、新規メニューには Read:All Users、Write:All Users が設定されています。詳細については、[42 ページの「メニューのアクセスコントロールを設定」](#)を参照してください。

メニュー項目の追加と更新

アプリケーションパッケージを NX^J コントロールセンタに配備すると、通常は、既存のメニューや新規メニューに1つ、または複数のメニュー項目が追加されます。このセクションで説明するステップを使うと、明示的にメニュー項目を追加、変更、削除できます。

メニューのメニュー項目を追加または更新するには、Edit Menu - Menu Items ページを使用します。このページにアクセスするには、Menu Administration ページのメニューで **Edit** ボタンをクリックします。次に、コンテキストメニューでメニュー項目をクリックします。

welcome back admin

Edit Menu - Menu Items

Menu Name: Rofida

Move	Resource Path	Label	Remove
<input type="radio"/>	/entry/Rofida/XReport	Expense Report	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	/entry/Rofida/EmployeeMgt	Employee Manager	<input type="checkbox"/>

ページには、メニューに対する現在のメニュー項目がある場合は表示されます。

リソースパスには、メニュー項目として以下のいずれかのリソースを含めることができます。

- メニュー
- Unify NX^J アプリケーションのエントリポイントフォーム

メニューのリソースパスは、以下のようになります。

/menu/<menu name>

“myMenu” というメニューのリソースパスは、以下のようになります。

/menu/myMenu

アプリケーションのエントリポイントフォームでは、リソースパスは以下のようになります。

```
/entry/<package name>/<entry point name>
```

パッケージ名は、アプリケーションパッケージが配備されると指定されます。アプリケーション開発者は、少なくとも1つのフォームをエントリポイントとして指定しているはずなので、エントリポイント名はパッケージで定義されます。

あるパッケージが“myPackage”として配備され、フォームのエントリポイント名が“myEntryForm”に指定された場合、メニュー項目のリソースパスは、以下のようになります。

```
/entry/myPackage/myEntryForm
```

新規メニュー項目は、以下のステップで追加します。

1. 空フィールドに、リソースの Resource Path を入力します。

リソースパスはスラッシュ（/）で始まっており、NX^J コントロールセンタのコンテキストパスに関連していると見なされます。

ピリオドやプロトコルで始まるリソースパスを入力すると、そのパスは拒否されます。

2. 必要に応じてメニュー項目の **Radio** ボタンをクリックし、上下の矢印をクリックして、リストを並べ替えます。
3. **Submit** ボタンをクリックします。

メニュー項目を完全に削除するには、Remove チェックボックスをセットして **Submit** ボタンをクリックします。

メニューの削除

メニューは、Menu Administration ページを使って削除します。

The screenshot shows the 'Menu Administration' interface. On the left is a sidebar with sections: 'Control Center' (Manage Notifications), 'My Notifications' (System Going Down), and 'Applications' (Rofida Expense Report Application, Customized Utilities, ROFIDA_EMPLOYEE, ROFIDA_EMPLOYEE, more...). The main area has a 'welcome back admin' message and a 'Menu Administration' header. Below the header is a 'Create New Menu' link and a table of existing menu items.

Resource Path ▲	Label	Remove
/menu/Rofida	Rofida Expense Report Application	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/admin	Control Center Administration	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/applications	Applications	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/editMenu	Edit Menu	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/main	Control Center	<input type="button" value="Edit"/>
/menu/orders	Orders	<input type="button" value="Edit"/> <input type="checkbox"/>
/menu/properties	Control Center Properties	<input type="button" value="Edit"/>

At the bottom right of the table area is a button.

メニューを削除するには、削除するメニューの Remove チェックボックスをセットして、**Remove** ボタンをクリックします。

あらかじめ定義されているメニューの一部には、削除できないものもあります。このようなメニューの Remove チェックボックスは表示されません。また、アプリケーションパッケージのエントリポイントへのメニュー項目があるメニューは、削除できません。

メニュープロパティの変更

メニューを作成したときに指定したメニュープロパティは、変更することができます。例えば、メニュー項目の最大ディスプレイサイズは変更できます。

プロパティを変更するには、Menu Administration ページのメニューで **Edit** ボタンをクリックします。Edit Menu - Properties ページが表示されます。このページは、Create Menu ページと同じものです。

Submit ボタンをクリックすると、メニューが更新されます。

メニューのアクセスコントロールを設定

メニューには、Read Access と Write Access の2つのアクセスコントロールが設定できます。Read Access ではメニューを表示できるユーザを指定し、Write Access ではメニューを更新 / 削除できるユーザを指定します。

指定できるアクセスコントロールのタイプは以下のとおりです。

表 5-1 *メニューの Access Control*

設定	Access Control のタイプ
Read Access	All users
	Only authenticated users
	Specified users and/or groups
Write Access	All users
	Only authenticated users
	Specified users and/or groups

デフォルトでは、Read Access と Write Access は、新規メニューのすべてのユーザに設定されています。

警告 – ユーザが、リソースへの Write Access を使って、そのリソースへのすべてのアクセスを完全に拒否することができます。Write Access とは、ユーザがそのリソースへのアクセスコントロールを変更し、そのリソースへのアクセスがあるユーザやグループのリストからユーザを削除できることを意味します。

メニューのアクセスコントロールを設定するステップは、以下のとおりです。

1. Menu Administration ページで、変更したいアクセスコントロールのメニューの **Edit** ボタンをクリックします。
Edit Menu ページが表示されます。このページが表示されると、クイックメニューにコンテキストメニュー “Edit Menu” が追加されます。
2. クイックメニューの Edit Menu メニューで、Access Control を選択します。

Edit Menu - Access Control ページが表示されます。

welcome back admin

Edit Menu - Access Control

Menu Name: Rofida

Read Access: All users
Users:
Groups:
 also allow Control Center Administrators

Write Access: All users
Users:
Groups:
 also allow Control Center Administrators

3. Read Access で、アクセスコントロールのタイプを選択します。

“Specified users and/or groups” を選択した場合は、そのユーザやグループの名称を指定します。

Users フィールドは、対応するパーミッションが与えられるユーザ名のカンマ区切りリストです。

Groups フィールドは、対応するパーミッションが与えられるグループ名のカンマ区切りリストです。

NX^J コントロールセンタ管理者に Read Access を設定しない場合は、チェックボックスをクリアにします。

4. Write Access でも、Read Access の場合と同じようにアクセスコントロールのタイプを選択します。
5. **Submit** ボタンをクリックします。

メニューのローカライズ

NX^J コントロールセンタのメニューで使用するラベルのロケール対応版を作成し、管理できます。メニューにエントリポイントが表示されると、そのラベルが使用されます。ラベルを表示する場合、最も近いロケール対応が使用されます。最も近いロケール対応がない場合、デフォルトのラベルが使用されます。

ロケール対応版は、以下の表に示すように、特定のロケールに基づいています。

表 5-2

ロケール	ロケール対応ラベル
en	Apps
en_US	Apps
sp	Aplicaciones

ローカライズしたラベルを作成する前に、NX^J コントロールセンタにロケールを設定する必要があります。ロケールを設定するには、Control Center の **Properties** > **Locales** を選択します。詳細については、[55 ページの 'Locales'](#) を参照してください。

ロケール対応版のラベルを作成したり編集するステップは、以下のとおりです。

1. Menu Administration ページで、ローカライズしたラベルを追加するメニューの **Edit** ボタンをクリックします。
2. クイックメニューで Localization を選択します。

Edit Menu - Localization ページが表示されます。

welcome back admin

Edit Menu - Localization

[Add To List of Supported Locales](#)

Menu Name: Rofida

Default Label: Rofida Expense Report Application
Default Short Label: null

Locale	Localized Label	Localized Short Label
en_US	<input type="text"/>	<input type="text"/>
sp	<input type="text"/>	<input type="text"/>

NX^J コントロールセンタで定義されたロケールが各行に表示されます。

行は、ロケール名のアルファベット順に並んでいます。

3. Localized Label フィールドと Localized Short Label フィールドに、ロケール対応版のラベルを入力します。

このフィールドを空白のままにしておくと、NX^J コントロールセンタは最も適切にローカライズされたテキストをロケール階層で検索します。

例えば、Web ブラウザが “en_US_variant1” というロケールを要求し、NX^J コントロールセンタがラベルで使用するローカライズされたテキストを必要とする場合、NX^J コントロールセンタは、まず、ローカライズされたテキストが “en_US_variant1” ロケールに該当するかどうかを判断します。テキストがあれば使用し、なければ “en_US” ロケール対応でローカライズされたテキストを探します。テキストがあればそのテキストを使用し、なければ “en” ロケール対応でローカライズされたテキストを探します。テキストがあればそのテキストを使用し、なければ Default Label を使用します。

Default Label は、Edit Menu - Properties ページで定義します。

4. 他のロケールについても同じステップを繰り返します。

5. **Submit** ボタンをクリックします。

通知により、アクセスしているリソースに関連がある NXJ コントロールセンタユーザに情報を伝えることができます。例えば、通知によって、アクセスするアプリケーションが一定時間オフラインになることを知らせることができます。

ユーザは、View Notification ページを使って通知を表示します。このページにアクセスするには、クイックメニューパネルの My Notifications メニューで特定の通知を選択するか、あるいは My Notifications のヘッダをクリックして、コンテンツ領域で示されたリストから選択します。

このユーザによって、閲覧できる通知のみがここにリストされる

未読通知がある場合はここに表示

通知のリストをスクロールするために使用

通知を破棄するために使用

ユーザ宛の通知が作成されると、自動的にユーザのビューに表示されます。ユーザが通知を取得する必要はありません。通常、ユーザは通知を読むと破棄します。ユーザによって破棄された通知は、“My Notifications”メニューには表示されません。

ユーザが通知を読んだ後で破棄しないことを選択すると、この通知は“My Notifications”メニューに残ります。“unread”（未読）フラグは設定されません。

注 – 認証された NX^J コントロールセンタユーザのみが、自分の通知を破棄できます。認証されていない（匿名）ユーザには、通知の既読 / 未読状態が表示されず、通知を破棄できません。

“コントロールセンタ 管理者”は、ユーザがそのロールの中で作用していることを意味します。コントロールセンタ管理者でない場合、NX^J コントロールセンタユーザのために通知を作成したり、作成した通知を管理するためには、Create/Edit/Remove Notifications 許可を付与される必要があります。

通知の宛先は特定の NX^J コントロールセンタユーザやユーザのグループで、通知の受取人です。受取人は、以下のように指定します。

表 6-1 通知の受取人

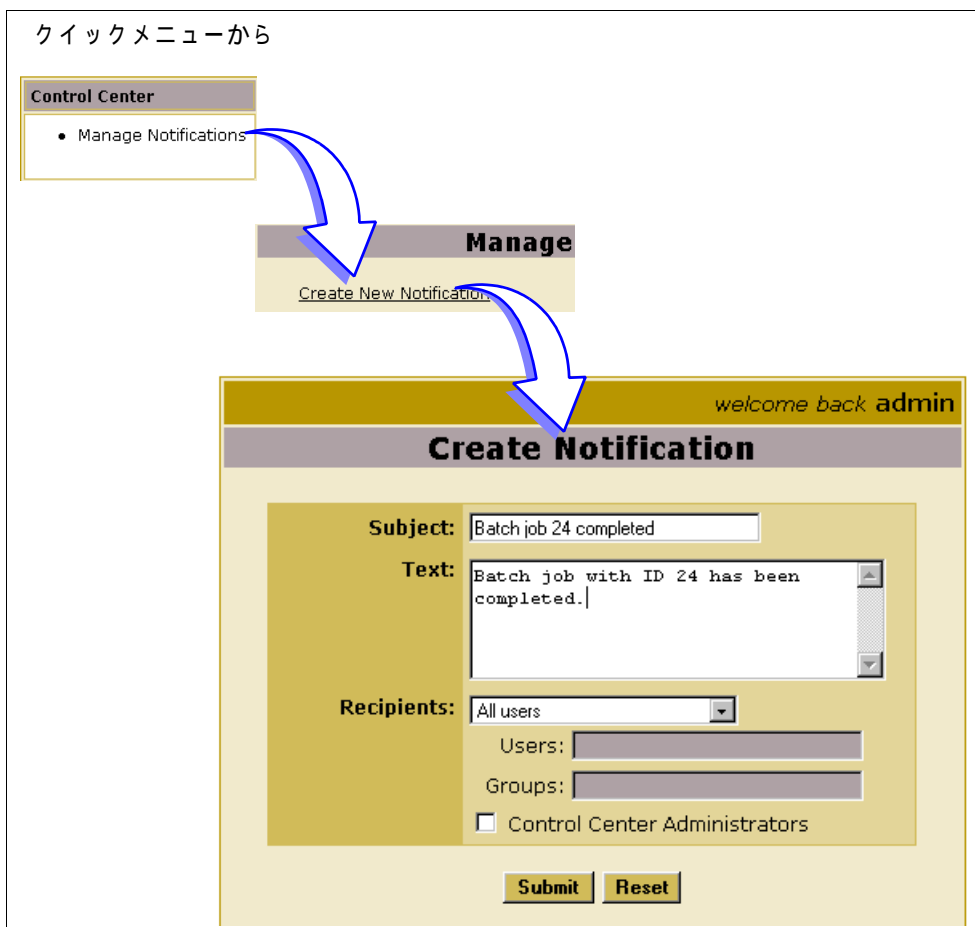
受取人のカテゴリ	説明
All users	認証されたユーザと匿名ユーザの両方が通知を受け取ります。
Only anonymous users	匿名ユーザだけが通知を受け取ります。
Only authenticated users	認証されたユーザだけが通知を受け取ります。
Specified users and/or groups	個別に指定されたユーザ、もしくはグループ名で指定されたユーザだけが通知を受け取ります。

通知の作成

通知を作成するには、Create/Edit/Remove Notifications にアクセスする必要があります（コントロールセンタ管理者のロールのユーザは、自動的にアクセスが許可されることを思い出してください）。通知を作成するステップは、以下のとおりです。

1. Manage Notification ページで、**Create New Notification** リンクを選択します。

Create Notification ページが表示されます。



2. Subject フィールドに通知の件名を入力します。
3. Text フィールドに通知内容を入力します。
4. Recipients グループのドロップダウンリストで、以下のいずれかのオプションを選択し、誰に通知を表示するかを指定します。
 - None
 - All users

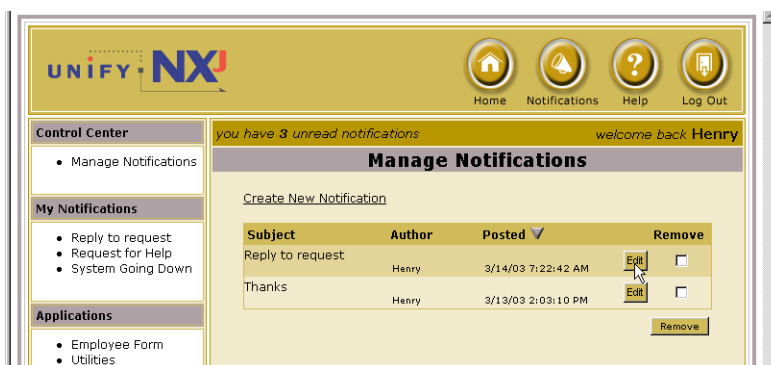
- Only anonymous users.
 - Only authenticated users.
 - Specified users and/or groups. ユーザとグループ名の組み合わせを指定します。
5. コントロールセンタ管理者にもこの通知を表示する場合は、Control Center Administrators チェックボックスをセットします。
 6. **Submit** ボタンをクリックします。
通知が作成されます。

通知の編集

以下のステップで、作成した通知を編集して再発行することができます。通知の内容や、通知が最初に作成されたときに指定したどのプロパティでも変更できます。

1. Manage Notification ページで、変更する通知の **Edit** ボタンをクリックします。

通知の任意のフィールドを変更します。フィールドの意味は、Create Notification ページの対応フィールドと同じです。



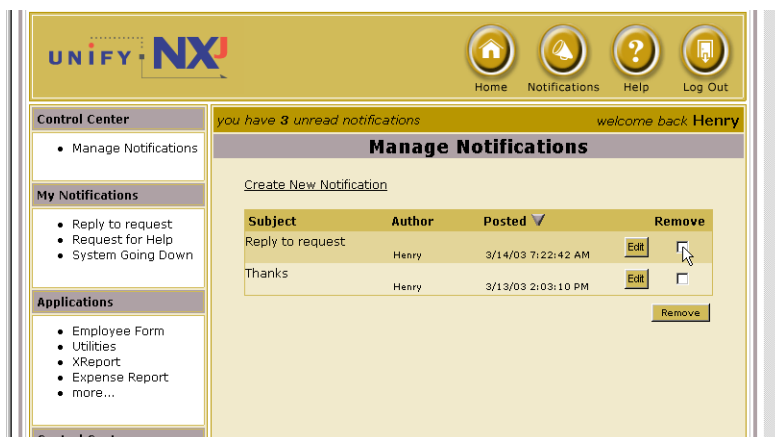
2. すでに通知を破棄したユーザや読んでしまったユーザに、もう一度通知を表示させたい場合は、“Revert to unread for all recipients” チェックボックスをセットします。

受取人が通知リストを表示すると、その通知をすでに読んでいる場合や破棄している場合でも、全員に通知が（未読として）表示されます。（匿名ユーザには、通知の既読 / 未読状態は表示されません）。

3. **Submit** ボタンをクリックします。
通知が発行されます。

通知の削除

Remove チェックボックスをセットして、Remove ボタンをクリックすることで、Manage Notification ページの通知を削除することができます。



The screenshot displays the 'Manage Notifications' interface in the Unify NXJ system. At the top, there are navigation icons for Home, Notifications, Help, and Log Out. The main content area shows a table of notifications with the following data:

Subject	Author	Posted	Remove
Reply to request	Henry	3/14/03 7:22:42 AM	<input checked="" type="checkbox"/> Edit
Thanks	Henry	3/13/03 2:03:10 PM	<input type="checkbox"/> Edit

Below the table, there is a 'Remove' button. The left sidebar contains navigation links for 'Control Center', 'My Notifications', and 'Applications'.

Notification Administration ページの使用

コントロールセンタ管理者は、通知の作成者にかかわらず、システムのすべての通知を管理するために Notification Administration ページを使用します。このページからも Create New Notification リンクを使って通知が作成できるので便利です。このページを表示するには、クイックメニューまたはコントロールセンタメニューで、Control Center Administration > Notifications を選択します。

クイックメニューから表示

Control Center Administration

- Application Packages
- Menus
- Notifications
- Properties

コントロールセンタメニューから表示

Control Center Administration

- Application Packages
- Menus
- Notifications
- Properties

または

you have 2 unread notification(s) welcome back admin

Notification Administration

Successfully removed the notification(s).

[Create New Notification](#)

Subject	Author	Posted ▾	Remove
Reply to request	Henry	3/14/03 7:22:42 AM	Edit <input type="checkbox"/>
Request for Help	admin	3/14/03 7:21:42 AM	Edit <input type="checkbox"/>
System Going Down	admin	3/14/03 7:20:46 AM	Edit <input type="checkbox"/>
Thanks	Henry	3/13/03 2:03:10 PM	Edit <input type="checkbox"/>

このページには、NX^J コントロールセンタの通知がすべて含まれています。デフォルトでは、通知は作成日時（送信された場合）の昇順で表示されています。Posted の列のヘッダの隣にある矢印をクリックすると、降順に並べ替えることができます。また、どの列のヘッダをクリックしても列を並べ替えることができます。

このページを使うと、通知に関連する以下のタスクが実行できます。

- Create New Notification リンクをクリックして新しい通知を作成する
- Remove チェックボックスをセットして、**Remove** ボタンをクリックすることで、通知を削除する
- **Edit** ボタンをクリックして通知を編集する。Edit Notification ページが表示される

you have 2 unread notifications welcome back admin

Edit Notification

Subject:

Text:

Revert to unread for all recipients

Author: Henry

Recipients:

Users:

Groups:

Control Center Administrators

作成者の読み取り専用フィールド以外のすべてのエントリを編集、または変更できる

NX^J Control Center の カスタマイズ

7

この章では、NX^J コントロールセンタで異なるバージョンのメニューを作成する方法と、ローカライズされた（翻訳された）テキストを作成する方法を説明します。

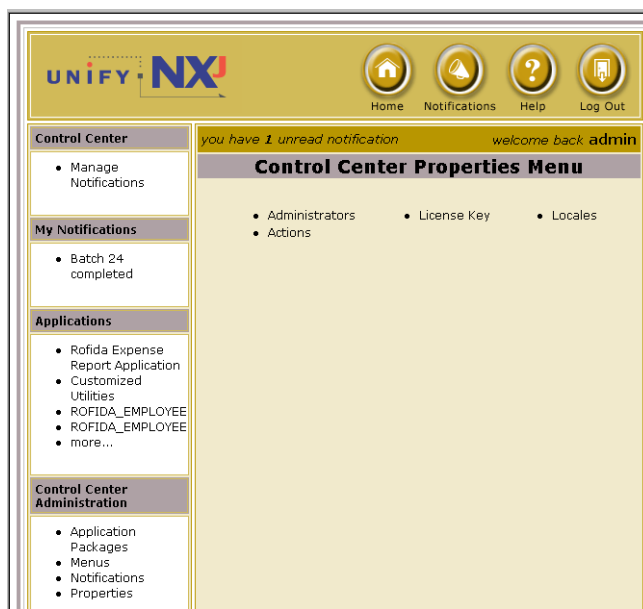
Actions

アクションのアクセスコントロールを編集して、ユーザの通知やメニューを作成、編集、削除できる権限を変更することができます。また、このコントロールを編集して、ユーザがアプリケーションパッケージを配備、再配備、削除する権限も変更できます。

アクセスコントロールを編集するステップは、以下のとおりです。

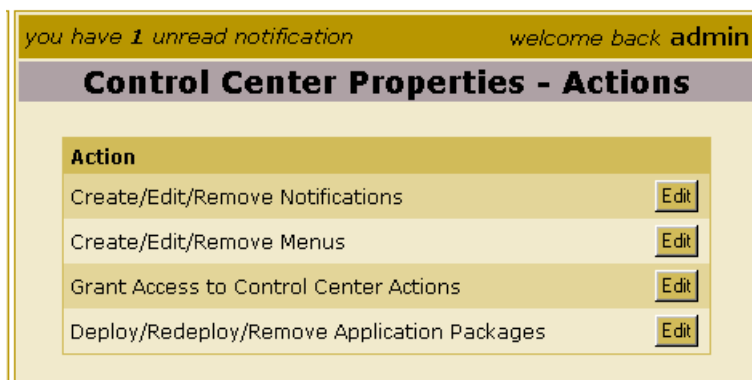
1. メインメニューの NX^J Control Center Administration で **Properties** をクリックします。

NX^J Control Center Properties Menu が表示されます。



2. **Actions** をクリックします。

Control Center Properties - Actions メニュー が表示されます。



3. 編集したいアクションの **Edit** ボタンをクリックします。例えば、Create/Edit/Remove Notifications の **Edit** ボタンをクリックします。

そのアクションの Edit Action ページが表示されます。

Control Center Properties - Edit Action

Action: Grant Access to Control Center Actions

Access Control: None

Users: _____

Groups: _____

also allow Control Center Administrators

Note that Control Center administrators always have permission to perform Control Center actions regardless of any action permission settings.

Submit **Reset**

None
None.
All users
Only authenticated users
Specified users and/or groups

4. ドロップダウンリストでユーザを選択します。
5. 変更を保存するには **Submit** ボタンをクリックします。

Action リストの他の項目も同じ方法で編集できます。

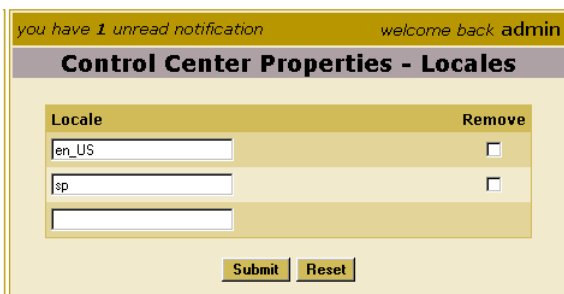
注 – “also allow Control Center Administrators” チェックボックスはセットされますが、コントロールセンタ管理者がどんなアクションも常に実行することができることを示して無効となります。この設定を変更することはできません。

Locales

NX^J コントロールセンタのリソースにロケール対応ラベルを作成できます。Web ブラウザが NX^J コントロールセンタに接続するとき、表示するラベルを正しく選択するために、この Web ブラウザのロケールが使用されます。

ローカライズされたラベルのテキストを指定する前に、ラベルに関連するロケールを定義する必要があります。

ロケールを設定するには、**Control Center Properties > Locales** を選択します。
Control Center Properties - Locales ページが表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing locales. At the top, there is a notification bar with the text "you have 1 unread notification" and "welcome back admin". Below this is the title "Control Center Properties - Locales". The main content area contains a table with two columns: "Locale" and "Remove". The "Locale" column has three rows: the first contains "en_US", the second contains "sp", and the third is empty. The "Remove" column has three rows, each with a checkbox. Below the table are two buttons: "Submit" and "Reset".

新しいロケールを追加するには、Locale の列の空のフィールドにロケール名を入力して、**Submit** ボタンをクリックします。ロケール名では、大文字と小文字が区別されます。また、ブラウザから渡されたロケール名と一致している必要があります。

アプリケーションパッケージのロケール名は、アプリケーションパッケージが配備されるときに作成されます。

既存のロケールを削除するには、Remove チェックボックスをセットして、次に **Submit** ボタンをクリックします。

ローカライズされたラベルを追加するには、[44 ページの「メニューのローカライズ」](#)を参照してください。

ccmanage ユーティリティ

A

ccmanage ユーティリティは、コントロールセンタを管理するために使用します。NX^J デザインセンタから NX^J アプリケーションを実行またはデバッグしたり、コントロールセンタから NX^J アプリケーションを配備するには、アプリケーションサーバにコントロールセンタを配備し、アクセス可能な状態にしておく必要があります。NX^J デバッガを使用する場合、アプリケーションサーバからデバッグサーバにアクセスすることも必要です。(デバッグサーバは、コントロールセンタが配備されているサーバとは、別の JVM モードで実行します。)

コントロールセンタが配備されているサーバとデバッグサーバは、通常、Unify NX^J をインストールすると起動します。また、**ccmanage** ユーティリティを使ってコントロールセンタを配備、削除、更新することもできます。

NX^J コントロールセンタの配備は、アプリケーションサーバの管理ドメインに関連し、ベンダー固有のものです。各管理ドメインは、各サーバに配備されたコントロールセンタと同様に利用可能なサーバを示します。各サーバには、コントロールセンタを1つだけ配備できます。同じサーバに、別のコントロールセンタを異なる名前で配備することはできません。

注 – この付録のステップは、GUI モードの **ccmanage** ユーティリティを使用して説明します。UNIX の場合、テキストモードのコマンド行からも、このユーティリティを実行できます。ユーティリティは <NXJHome>/bin ディレクトリにあり、テキストモードで実行する **text** オプションが必要です。

NX^J コントロールセンタの配備

インストール時に NX^J コントロールセンタを配備しなかった場合や、現在使用しているのは別のアプリケーションサーバに配備する場合、以下のステップで NX^J コントロールセンタアプリケーションを配備できます。

1. ccmanage ユーティリティの開始します。

Windows: **スタート > プログラム > Unify NXJ > コントロールセンタ管理ツール** を選択します。

UNIX:UNIFY_HOME/bin のパス上で、**ccmanage** ユーティリティを実行します。

NX^J コントロールセンタ管理ダイアログが表示されます。コントロールセンタを配備の**ラジオ** ボタンは、設定されてます。

2. **次へ** ボタンをクリックします。
アプリケーションサーバダイアログが表示されます。
3. コントロールセンタを配備させたいアプリケーションサーバのベンダーを選択します。
4. **次へ** ボタンをクリックします。
アプリケーションサーバに必要な情報を入力します。アプリケーションサーバにアクセスするためのユーザ名とパスワードが必要な場合は、入力するように求められます。
5. デフォルトの NX^J コントロールセンタ名を適用するか、新しい名称を入力します。デフォルトのサーバを使用するか、ドロップダウンリストからサーバを1つ選択します。コントロールセンタ名には、スペースは使用できません。
6. **配備** ボタンをクリックします。
配備が完了すると、完了ダイアログが表示されます。リンクをクリックすることで、配備されたコントロールセンタにアクセスすることができます。
7. **閉じる** ボタンをクリックします。
これで、新しいコントロールセンタの配備を完了します。

NX^J コントロールセンタの更新

新しいリリースの Unify NX^J をインストールする場合は、NX^J コントロールセンタアプリケーションも更新する必要があります。何らかの理由でインストール時に NX^J コントロールセンタ アプリケーションが更新されなかった場合、以下のステップで更新することができます。

1. **ccmanage** ユーティリティを開始します。
Windows: **スタート > プログラム > Unify NXJ > コントロールセンタ管理ツール** を選択します。

UNIX:UNIFY_HOME/bin のパス上で、**ccmanage** ユーティリティを実行します。

NX^J コントロールセンタ管理ダイアログが表示されます。コントロールセンタを配備の**ラジオ** ボタンは、設定されています。

2. コントロールセンタの**ラジオ** ボタンを更新をクリックします。
3. **次へ** ボタンをクリックします。
コントロールセンタの構成ダイアログが表示されます。
4. ドロップダウンリストから更新するコントロールセンタを選択します。
5. **更新** ボタンをクリックします。
更新が完了すると、完了ダイアログが表示されます。
6. **閉じる** ボタンをクリックします。
これで、コントロールセンタの更新を完了します。

NX^J コントロールセンタの削除

以下のステップで、“コントロールセンタの削除” オプションのある NX^J コントロールセンタを削除することができます。

NX^J コントロールセンタの削除は、配備されたアプリケーションパッケージを削除しません。配備されたアプリケーションパッケージも削除したい場合は、最初に、コントロールセンタメニューの Control Center Administration - Application Packages selection を使って削除する必要があります。

1. **ccmanage** ユーティリティを開始します。
Windows: **スタート** > **プログラム** > **Unify NXJ** > **コントロールセンタ管理ツール** を選択します。
UNIX:UNIFY_HOME/bin のパス上で、**ccmanage** ユーティリティを実行します。
NX^J コントロールセンタ管理ダイアログが表示されます。“コントロールセンタを配備” **ラジオ** ボタンが、設定されています。
2. コントロールセンタ**ラジオ** ボタンを削除をクリックします。
3. **次へ** ボタンをクリックします。

コントロールセンタの構成ダイアログが表示されます。

4. ドロップダウンリストから削除するコントロールセンタを選択します。
データディレクトリの削除 チェックボックスはクリアです。
5. すべてのコントロールセンタのデータを削除したい場合は、データディレクトリの削除 チェックボックスをセットします。

このチェックボックスの設定は、メニューエントリ、ラベル、アクセスコントロールのような、コントロールセンタに追加されたデータを削除します。データディレクトリの削除は、配備されたアプリケーションを削除しません。(URLによって、まだアクセス可能です。)

6. **削除** ボタンをクリックします。
コントロールセンタは削除され、指定していればデータディレクトリも削除されます。完了ダイアログが表示されます。
7. **閉じる** ボタンをクリックします。
これで、コントロールセンタの削除を完了します。
8. 配備した NX^J アプリケーションパッケージが、最初に削除されておらず、今それらを削除するとした場合、どんな配備した NX^J アプリケーションを削除するためにもベンダー固有のツールを使用する必要があります。

実運用環境で NX^J コントロールセンタを使用する場合、NX^J コントロールセンタには、Unify NX^J インタラクティブサーバライセンスが必要です。

開発環境で NX^J コントロールセンタを使用している場合は、インタラクティブサーバライセンスではなく、デザインセンタライセンスが認められていることがあります。認められているライセンスの種類は、以下のステップ 2 で確認できます。

NX^J コントロールセンタの現在のライセンスを変更するステップは、以下のとおりです。

1. Unify から新しいライセンスキーを取得します。
2. **Control Center Administration > Properties > License Key** を選択し、NX^J Control Center Properties - License Key ページを開きます。

現在のライセンスキー情報が表示されます。

Control Center Properties - License Key

Serial Number:

License Key:

License Key Attributes

Hostname:	inverness
Major Version Number:	9
Installation Start Window:	Jul 21, 2002
Installation End Window:	Oct 31, 2002
Permanent License:	False
Expiration Date:	Oct 31, 2020
Maximum Number of Users:	Unlimited
Trial License:	True
Site License:	True
Spring Design Center:	Enabled
Spring Business Server:	Enabled
Spring Control Center:	Enabled
Spring Web Reporting:	Enabled
ACCELL/SQL Application Import:	Disabled
ACCELL/Web Application Import:	Disabled
ACCELL/Web Development:	Disabled

3. License Key フィールドにライセンスキーを入力します。

表示通りにキーを入力します。キーの大文字と小文字は区別されます。

4. **Submit** ボタンをクリックします。

ページが再表示され、ライセンスが更新され License Key Attribute 値が更新されたというメッセージが表示されます。(ACCELL/SQL および ACCELL/Web は、Unify NX^J への移行をサポートする予定の Unify 製品です)。

IBM WebSphere 4.X アプリケーションサーバに配備する NX^J アプリケーション

C

IBM WebSphere アプリケーションサーバを使用する場合、アプリケーションサーバ独自の配備ツールを使って NX^J アプリケーションパッケージを配備します。NX^J コントロールセンタは使用できないので、アプリケーションパッケージの配備中は、NX^J コントロールセンタ固有の NX^J アプリケーション機能 (NX^J コントロールセンタメニューなど) は無視されます。アプリケーションは、スタンドアローンの J2EE アプリケーションとして配備され、アクセスされます。

この付録では、以下の内容を説明します。

IBM WebSphere 4.X Application Server を使った配備

スタンドアローンアプリケーションへのアクセス

WebSphere 4.X アプリケーションサーバを使った配備

一般に、NX^J アプリケーションパッケージを配備する作業は、EAR ファイルとしてパッケージ化された J2EE アプリケーションの場合と同様です。ただし、NX^J アプリケーションでは、以下のような点を考慮する必要があります。

- WebSphere 4.X サーバに配備できる NX^J アプリケーションは、いかなる場合でも 1 つだけです。複数の NX^J アプリケーションが必要な実行環境では、NX^J アプリケーションごとにサーバを作成し、複数サーバエディションの IBM WebSphere アプリケーションサーバを使用する必要があります。
- IBM WebSphere アプリケーションサーバの Module Visibility を Application に設定する必要があります。IBM WebSphere Advanced Administrative Console でアプリケーションサーバのプロパティを編集し、Module Visibility の値を Application に設定します。この設定は、NX^J アプリケーションを配備するサーバ、またはサーバグループごとに行う必要があります。

- NX^J アプリケーションの “unify/home” EJB 環境エントリを正しく設定する必要があります。環境エントリの値は、アプリケーションパッケージが作成されたマシンの Unify NX^J リリースの場所に設定されます。この値がターゲットマシンの同じ場所でなければ、エントリを訂正する必要があります。その場合は、IBM WebSphere アプリケーションアセンブリ ツールを使って NX^J アプリケーションの .ear ファイルを開き、以下のステップを実行します。
 - a. **EJB Modules > NxjEjb.jar > Session Beans > nxjFieldManager** のブラウザ ツリーで Environment Entries ノードを選択します。
 - b. 右側のパネルのリストで unify/home のエントリを選択します。
 - c. エントリの値の編集フィールドで、Unify NX^J がマシンにインストールされている場所を正確に反映していることを確認します。反映されていない場合は、正しい場所に入力します。
 - d. 変更を保存し、アプリケーションアセンブリツールを閉じます。
- NX^J アプリケーションがいずれかの JDBC データソースを使用する場合は、アプリケーションを配備する前に、アプリケーションサーバ環境でデータソースを作成する必要があります。
- IBM WebSphere Advanced Administrative Console を使って、NX^J アプリケーションを配備します。J2EE アプリケーションのインストール方法については、IBM WebSphere のドキュメントを参照してください。
- NX^J アプリケーションの配備が完了したら、プラグイン構成を再生成します。これは、Web Server が新しく配備したアプリケーションのコンテキストパスを理解するために必要な手順です。再生成の方法は、IBM WebSphere Application Server のバージョンによって異なります。
 - IBM WebSphere Advanced Edition を実行している場合は、Advanced Administrative Console の Node entry を右クリックして Regen Webserver Plugin を選択します。
 - IBM WebSphere Advanced Single-Server Edition を実行している場合は、サーバのツリーエントリをクリックします。右側のパネルで Web Server Plug-in Configuration へのリンクをクリックし、手順に従います。
- Single Server Edition で実行している場合、アプリケーションサーバを再起動する前に構成の変更を保存することが重要です。コンソール上部の “Configuration needs to be saved link” をクリックし、手順に従います。
- アプリケーションサーバを再起動し、アプリケーションにアクセスします。

スタンドアロンアプリケーションへのアクセス

WebSphere に NX^J アプリケーションの配備を完了した場合、以下の URL を使って NX^J アプリケーションにアクセスします。

`http://<host>[:<port>]/<packageName>`

ここで

`<host>` は Web Server ホストの名称です。

`<port>` は Web Server がリスニングしているポート番号です（ポートが 80 の場合は省略可）。

`<packageName>` はパッケージ名で拡張子はありません。アプリケーションのコンテキストルートとして使用された名称です。

例えば以下ようになります。

`http://localhost/myPackage`